

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(脳卒中)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ①ボツリヌス療法後の治療について、CI療法について知る
- ②評価用紙のブラッシュアップ
- ③嚥下機能に対するボトックス治療の文献紹介

●構造 structure

- ①ボツリヌス療法後の治療について、CI療法についての研修依頼(関西リハビリテーション病院OT)
- ②友愛会病院との連携強化
- ③利用者選定(5名 通所4名、訪問1名)

●過程 process

- ①研修会に参加しボツリヌス療法の概要、評価方法等情報収集する
- ②友愛会病院 療法士・医師との連携強化、グラクソスミスクライン社スタッフとの協業を図る
- ③友愛会病院と協業しボトックス施注部位の提案、MAS・利用者の主訴・施注単位数について新たな用紙を作成・運用をすすめた

●結果 outcome

- ①ボツリヌス療法について勉強会(通所・訪問併用されている利用者の症例発表、ST関係の文献紹介)を開催しコアカリメンバーで共有した
勉強会:5/24、8/24、11/24、2/22参加
通所⇄訪問⇄入所と横断的な連携を図るため、2024年1月より訪問会議にも参加
- ②ボトックス施注までのフロー図を再編
- ③新たな評価シートにて3名運用した(通所2名、訪問1名)

《次年度持ち越し課題》

病院・業者との更なる連携強化を図る(施注部位の同定、単位数の設定教示してもらう)
ボトックス療法についての知識を有するスタッフを養成する(各種勉強会開催、参加)
利用者選定、矢木クリニックとの連携検討